

北海道支部第４回セミナー「使用済み自動車の処理・リサイクルの現状と課題」報告記

支部幹事 広吉直樹

北海道地区では支部が結成される以前からその時々ホットな話題に関するセミナーを年１回のペースで開催してきた。支部として正式に認められた本年度は、この第４回目のものとして「使用済み自動車の処理・リサイクルの現状と課題」と題したセミナーを資源・素材学会北海道支部との共催にて本年１月３０日に開催した。このセミナーは一般公開されており、「自動車リサイクル法」の施行が近いこともあって、学会員のみならず、一般市民の方々や業界・行政関係者そして学生の皆さんなど多方面から約１８０名の参加者を得た。セミナーは基調講演とパネルディスカッションの二部構成で、基調講演の講師にはこの問題に関して深い知見を有する外川健一氏（九州大学助教授）をお招きし、「自動車とリサイクル－経済地理学から見た自動車産業の静脈部－」と題してお話し頂いた。パネルディスカッションは、外川先生と自動車の処理・リサイクルに関わる仕事に携わっておられる方々（南可昭氏（北海道自動車処理協同組合理事長、藤田佳久氏（（株）鈴木商会専務取締役、西川昭平氏（日本タイヤリサイクル協会北海道地区委員会事務局長）、本間格氏（アール・アンド・イー代表取締役））にパネラーとして参加頂き、恒川昌美支部長（北海道大学教授）の司会で進めた。使用済み自動車の処理・リサイクルシステムの問題点やそれと自動車リサイクル法との係わりなどについて聴衆を交えた活発な議論があり、循環型社会の北海道モデルを構築するために各人がそれぞれの立場から主体的に取り組むことの重要性が確認された。